

大津町議会 議会活性化特別委員会行政調査

氏名 佐藤 真二

視察研修名：大津町議会議会活性化特別委員会行政調査

視 察 先：岩手県陸前高田市、奥州市、北上市

期 日：令和6年5月8日（水）～10日（金）

研修テーマ：陸前高田市「議員定数見直しについて」

奥 州 市「議会改革全般について」

北 上 市「議員報酬見直し、市民と議員をつなぐ会について」

研修報告 意見・感想

①陸前高田市「議員定数見直しについて」

【事前確認データ】

			陸前高田市		
告示日			2023/8/27	2019/9/1	2015/8/30
投票日			2023/9/3	2019/9/8	2015/9/6
定数/候補者数			16 / 19	18 / 26	18 / 19
有権者数			15,622 人	16,529 人	17,086 人
投票率			76.25%	76.91%	73.79%
前回投票率			76.91%	73.79%	77.68%
議員報酬			300,000	300,000	300,000
当選者数			16	18	18
選	平均年齢		59.1	57.9	56.7
	新	新	3	4	5
		現	13	13	12
		元	0	1	1
	旧	女	2	4	2
		男	14	14	16
候補者数			19	26	19
議	平均年齢		58.7	59.8	57.3
	新	新	4	10	6
		現	15	15	12
		元	0	1	1
	旧	女	2	5	3
		男	17	21	16

【訪問】

日 時：R6.5.8 14:30～16:00

対応者：及川議長 山田議会事務局長

【説明内容】

1. 議員定数の見直し

資料：陸前高田市議会諸課題調査検討委員会調査報告書

○議員定数削減の経緯

- ・2010（H22）震災前に定数 20 を 18 にすることとしていた。
震災により任期延長となり 9 月に 18 人で改選。
震災後の市民の声を十分に聞けたかという思いがある。
- ・その後、人口減少で震災前 2 万 4 千人が、1 万 7 千人に減少。
18 人のままでいいのか、の声が出てきた。
削減論は、報酬増とのセットでとの考えだった。
- ・議会の報告会で意見を聞く
議会報告会は、11 のコミセン単位で年 1 回以上開催している
報酬増については、おおむね好意的反応。ただし、活動の充実が必要。
- ・議員の意見は、会派で取りまとめ
委員会は、会派意見のとりまとめがメイン。
そのため、個別の議論の内容はよく分からない。← 2 人減の根拠不明

○定数減の影響

- ・委員会構成、5 人で十分な議論ができるかとの心配の声はあった。
- ・デメリットとして、多様な意見が出てこない、決定は早いがブレがでる。
- ・（合併前の）旧 9 町村の代表制の確保ができない。

○住民の反響

- ・特にない。

※報酬については、議論の当初は、削減とバーターだったが、コロナ禍でもあり議論が進まず、現状維持となった。審議会討論を望むとしている。

【意見・感想】

人口減に伴う受動的な定数の減とみられる。

委員会も、会派の議論を取りまとめるという関わりに終始した模様に、積極的な情報やデータの提供を行ったようには見受けられない。

震災後の、「市民の声を十分に聴けたか」という後悔がどう昇華されたのか。

また、報酬増の議論がなぜ立ち消えになったのか、疑問が残るものだった。

②奥州市「議員改革全般について」

【事前確認データ】

			奥州市		
告示日			2022/2/27	2018/2/25	2014/3/2
投票日			2022/3/6	2018/3/4	2014/3/9
定数/候補者数			28 / 28	28 / 30	28 / 32
有権者数			97,272 人	100,692 人	101,718 人
投票率			—	64.24%	67.70%
前回投票率			64.24%	67.70%	—
議員報酬			360,000	321,000	321,000
当選者数			28	28	28
歳	平均年齢		60.0	61.4	60.8
	期	新	8	9	7
		現	20	19	21
		元	0	0	0
	別	女	4	3	3
		男	24	25	25
候補者数			28	30	32
機	平均年齢		60.0	62.0	61.2
	期	新	8	9	8
		現	20	21	24
		元	0	0	0
	別	女	4	3	3
		男	24	27	29

【訪問】

日 時：R6.5.9 12:45～15:00

対応者：菅原議長 千葉議員 小野議員 菊地議会事務局次長 他

【説明内容】

1. 議会改革全般について

資料：奥州市議会における議会改革の実践 ～激動の6年間を振り返る～

(1) 議長マニフェスト

議長の所信表明

- ・正副議長立候補、議場で5分の所信表明（正2名、副3名 立候補）
- 時間不足で言えなかったこと・・・議長マニフェストにした

広報・広聴活動

- ・広聴広報委員会に改組・・・6、7名（1期、3・4期で構成）
- ・ワールドカフェ方式での市民意見の把握
- ファシリテーターは議員、研修を実施

政策立案・政策提言サイクル

- ・提言フォローアップの所管事務調査

議員間討議

- ・ガイドラインの策定・・・ポイント
- ・対話、議論、討論の流れ

なり手不足解消

- ・議員の活動量調査

(2) 激動の記録

6年前、現議長が広報委員長になり改革が加速

情報戦略の多角化

・「公開媒体の質に対する意識」・・・意味を考える

ライブ字幕システムの導入

・デメリットは感じない

・変換精度99%以上 UD-Talk を使用

Zoom 本会議に対応

・実績はない 出席扱いにする

ICT 推進方針の策定

・生成AIの推進

・議論における見落としを生成AIで補う

質問の仕方のコツは？ 特になし、慣れること

議員間討議のガイドライン

・SNSで広報したことで取材があり新聞掲載されアピールできた

(3) 激動の記録②

政策提言・立案

・政策提言の決議で実効性を高める

・実行されない場合は、条例制定を

Ex おうしゅう地産地消わくわく条例 子どもの権利に関する条例

政策提言サイクル

・2年間の常任委員会任期、期初に課題を掘り起こしテーマを決定

(ワールドカフェ市民意見、所管事務、先進地視察、手段)

サイクルの確立

年間計画の策定、当局計画の策定期限を把握し、先回り提案

【質問・回答】

Q 予算決算特別委員会の内容

議長を除く全員が委員。1日に2～3部門対象で1週間かかる。

時間は10時～5・6時の場合もある。

Q SNS発信のリスク、議会が発信することの担保

広報広聴委員会が運営、内容はあくまで事実のみとする

説明や意見は個人のSNSでシェアすることで対応

質問等には答えないルール

Q 取り組みへの市民の反応は？

ランキングやマニフェクト賞をもらったが、なかなか伝わらない。

重要なのは改革の意図を理解してもらうこと。

住民福祉の向上が改革の目的である。

・全協は月1回16日が定例

・事務局体制 運転手含め7名 2人は併任 増員を要求している

【意見・感想】

改革の項目・質ともに極めて高いレベルで実践されている。

議員報酬の増額に見合う（それ以上の）議会活動の充実が見られる。

活動の充実は議員個人によらず、議会の仕組みの中で実現することになっている。議員間討議を踏まえて取り組んでいる。

一方、この活動を行うには、議員の負担は極めて大きいと推察される。

③北上市「議員報酬見直し、市民と議員をつなぐ会について」

【事前確認データ】

			北上市		
告示日			2024/3/17	2020/3/22	2016/3/20
投票日			2024/3/24	2020/3/29	2016/3/27
定数/候補者数			26 / 30	26 / 26	26 / 27
有権者数			76,473 人	77,409 人	75,101 人
投票率			50.68%	—	57.05%
前回投票率			—	57.05%	60.62%
議員報酬			401,000	351,000	351,000
当選者数			26	26	26
養	平均年齢		60.6	61.5	60.1
	細	新	7	6	6
		現	19	19	20
		元	0	1	0
	粗	女	8	6	5
		男	18	20	21
候補者数			30	26	27
機	平均年齢		61.2	61.5	59.6
	細	新	9	6	7
		現	21	19	20
		元	0	1	0
	粗	女	9	6	5
		男	21	20	22

【訪問】

日時：R 6. 5. 9 15:20～17:00

対応者：菊池議長 三宅議員 小原議会事務局長 鈴木係長 佐々木主任

【説明内容】

○議員報酬と定数（H 2 9 まで、と今回）

・検討のきっかけ：通年議会の導入（H 2 7. 1 2）による業務量の増加

・報酬の検討：議会議委の活動の在り方を明らかに

⇒必要な人数が明らかになる

・視点、活動量、他議会との比較、公務員との比較

・市民との意見交換 問い方として「自分、身近な人に立候補してもらうには報酬、定数はどうあるべきか、どのような条件が必要か」と問うた

＝自分事として考えて

- ・審議会での議論はどうだったか（審議会は毎年1月に開催）
議会が結論を出してから、審議会が議論すると圧力にならないか。
⇒毎年、定例的に審議会が開催されるので、考えない
議会費全体のなかで（定数も含めというニュアンス？）考えてほしいとの要望はあった
- ・定数の議論、
議員間では拮抗⇒議論の論点を示し意見交換（ワールドカフェ）
議員、市民の意見はともに、現状維持がやや多数
- ・議会フォーラム 江藤俊昭先生に、これまでの議会の検討を講評する形で提言をもらう
- ・改定後の継続検討
数年かけて評価の取り組み
活動量の再調査 少なかったが、コロナの影響を考慮すれば概ねモデルどおり

【意見・感想】

議員報酬・定数見直しの議論が、論理的・合理的に進められている。
いずれも、議員と市民の意見の方向性が一致しており、ポイントは検討・判断の基準を明確化しながら進めていったこと、議会と市民の双方が両輪で議論する丁寧なステップを踏んだことの意味が大きいと思われる。
また、最終段階では、専門家の論評を受けることで、議論の確実性を担保している。
残念ながら、令和2年の選挙は無投票であったが、その後も検証を継続しており、プロセスを繰り返しながら進めていっている様子がうかがえる。